

## Q1 登下校の問題について

### 〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

学校が好きな A さんは、登校班で学校に来る途中にトラブルになることが多いのです。トラブルになる前の A さんの状況をよく観察してみると、班の子どもに早く歩くように促されたり、通学路を逸脱しそうになったときに、無理やり手を引っ張られるなど、自分のペースで歩けないときに起こるようです。

自閉症の子どもは、対人関係を作ることや集団で行動することが非常に苦手です。自ら進んで対人関係を作ることとはあまり見られませんし、コミュニケーションの方法も独特なものがあります。また、集団で活動することに関しても、その意義や必要性を十分理解しているわけではありません。どちらかという、何故そうするのか（集団行動をするのか）理解しにくいようです。さらに、適切な対人関係の作り方や、集団行動をとる方法や技能（スキル）が十分でない場合があります。

### 〈このような場合の支援 1〉

小学校 2 年生の知的障害を伴う自閉症の男児。通学路の道路の決まった側を歩くことにこだわります。登校時は右側なのでよいのですが、下校時には道路の左側になり危険と思われるので、右側を歩かせようとしても泣いて左側を歩こうとします。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 下校時には、右側を歩くことを事前に予告しておく。
- ② 学級の児童などと教師と一緒に右側を歩いて、みんなが右側を歩いていることを再認識する。
- ③ 右側を少しでも歩ければ、ご褒美シールを貼る。つまり行動の評価を視覚的にわかりやすくして、正しい行動、適切な行動の定着を図る。
- ④ ごほうびシールが一定量たまった時は、家庭とも協力して、帰宅後に本人の好きなことをできるようにすることも考えられる。

### 〈このような場合の支援 2〉

小学校 5 年生のアスペルガー症候群の女児。登校時に、自分の興味のある話題をずっと話していて、その話を登校班の児童が聞き流したり、話を中断して登校を急がせたりすると「いじめだ」と言って、大騒ぎをします。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 登校班で登校する時のきまり（話に夢中にならない・時間に留意して歩くなど）を再確認する。
- ⑥ 登校時刻に遅れそうな場合に、どのような行動をとればよいのか考えさせる。その結果を書いて、登校時にできたかできなかったか等を確認する。
- ⑦ 学校に到着した時刻や登校中の様子（例：話に夢中にならなかったか）を表に自己記録させ、登校班でのルールを意識させる。
- ⑧ 登校班の他の児童には、「話は学校に着いてから」あるいは「休み時間に話を聞く」と本人に伝えるように指導する。
- ⑨ 本児と個別に「いじめられる」ことの内容等について話をする（状況によって、話を聞かないのはいじめではないことを理解させる）。

## 学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



| 月／日 | 対象児の問題 | 教師やクラスの子どもの対応 | 対応後の対象児の様子 |
|-----|--------|---------------|------------|
|     |        |               |            |